



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和2年 7月 9日
福島市立金谷川小学校
校長 宍戸 与一
児童数 81名

コロナ禍の先を見据えて

真夏を思わせる日差しが照りつけたかと思うと梅雨寒で気温が上がらない日も。例年のこととはいえ体調管理に気を使う季節になりました。保護者の皆様も、日々、お子様の健康状態に気を使われていることと思います。



また、感染症予防のため普段からマスクを着用している中で、熱中症にはくれぐれも注意したいところです。猛暑日の日数も毎年多くなっています。本人が暑さで息苦しいと感じたときなどには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸をしたりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導しています。ご家庭でも、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すようご対応ください。

★変化に対応する力★

子どもたちにとって、新しい生活様式は、戸惑いも多いかと思いますが、変化は成長のチャンスととらえ、チャレンジする子どもであってほしいと思います。

一方、変わらぬこと、学校だからこそできることはたくさんあります。子どもたちの成長には、人との関わりが大切です。人と関わることで学び、得ることができることを大切にしていきたいと思います。

笑顔、元気、優しさにあふれ、「学校が大好き」と感じるができるよう、金谷川小学校教職員一同頑張って取り組んでまいります。

地 域 の 力

登下校の時刻に合わせて、地域の見守り隊の方々が様々な場所で、毎日子どもたちの安全を見守ってくださっています。暑さの厳しい日や雨の日であっても、子どもたちの安全のために活動してくださっています。本当にありがたいことです。改めて感謝申し上げます。



仕事が休みの時なのでしょう、時々、お子さんと一緒に歩いて登校してくる保護者の方を見受けます。「ここは、必ず止まって、左右よく見るんだよ」とお父さんが教えていることがあります。“自分の命は自分で守る”学校でも繰り返し指導しているところです。

自分の身を守る必要があるという意味では、新型コロナウイルスへの対応も、まさしく同じもの。子どもたちが新型コロナウイルスに関する正しい知識を身につけ、状況に応じて自分で判断し、周りを思いやって行動できるように導いていきたいと思ひます。

難しいことかと思ひますが、ご家庭でも、お子様が考え判断する機会を多くもつように、意識していただければと思ひます。